

発信されている情報を利用しよう！

さまざまな機関が防災に役立つ情報をホームページなどで発信しています。今回は、それらのホームページやサービスを4つの目的に分類して紹介します。



三島市の状況を知る

三島市公式ウェブサイト（地震・防災情報）

- 最新防災情報、緊急・危機管理情報
- 市の各種防災計画や取り組み
- 市民・自主防災組織・事業者が状況に応じてとるべき行動
- 市からの情報取得方法（防災ラジオ、同報無線テレフォンサービス）

<http://www.city.mishima.shizuoka.jp/maincategory0902.html>
<http://www.city.mishima.shizuoka.jp/maincategory0902.html>



市民メール（みしまるホットメール）

市の危機管理情報をはじめとした各種情報が電子メールで配信されるシステムです。2月の降雪の際にも、道路状況や気象警報などの情報を配信し、非常に役立ちました。登録は無料ですので、ぜひご利用ください。

<http://www.city.mishima.shizuoka.jp/ipn009218.html>
 <<登録方法>>

以下の電子メールアドレス宛に空メールを送信し、届いたメールから登録ができます。

t-mishima@sg-m.jp

※メールが届かない場合は、上記みしまるホットメールのホームページをご確認ください。



被害想定を知る

GIS（静岡県統合基盤地理情報システム）

- 各種被害想定を地図で見ることができます。
- 第4次地震被害想定（震度分布、津波浸水地域ほか）
 - 第3次地震被害想定（延焼危険度ほか）
 - 土砂災害情報マップ

<http://www.gis.pref.shizuoka.jp>



災害・気象の基礎情報を知る

気象庁ホームページ

- 気象の知識や防災気象情報などを知ることができます。
- 防災気象情報（気象警報、注意報、台風情報など）
 - 気象などの知識（地震・津波・台風などのメカニズム）
 - 土砂災害警戒判定メッシュ情報
 - 降水、雷、竜巻の分布状況

<http://www.jma.go.jp/jma/>



川の水位を知る

サイポスレーダー（静岡県土木総合防災情報）

川の水位などを知ることができます。

- 水位情報（狩野川、大場川）、雨量情報

<http://sipos.shizuoka2.jp/sipos/>



わたしたちの自主防災組織

徳倉2丁目町内会長 志賀 健治さん



訓練には、これまで子どもの参加が少なかったのですが、学校の協力のもとに、子どもも参加してくれ、AEDや消火訓練などを積極的に行いました。

また、訓練時に「我が家は大丈夫」という家には黄色いハンカチを掲げてもらいました。これまで、防災訓練に参加していなかった世帯も「黄色いハンカチ」を掲げるにより訓練に参加しました。家が大丈夫な人は避難所へは行かないことを啓発するためにも今後も「黄色いハンカチ作戦」を推進したいと思います。

近代化を支えた 三島の 製糸関係資料

郷土資料館の三階「三島の成り立ち体験学習室」では、三島の歴史について学ぶことのできる資料を多数展示しています。今回はその中から、明治時代の製糸業に関する資料を紹介します。

平成二十二年に「明治日本の産業革命遺産」として葦山の反射炉などがユネスコの世界遺産暫定一覧表に登録され、日本の近代化を担った産業遺産が注目を集めています。日本の近代化を支えた産業の中でも製糸業は、外貨獲得のための主要な輸出品として日本全国で盛んに行われていました。

明治以降、三島でも農村では副業として養蚕が盛んになり、町中には川沿いに製糸工場が建ちました。

農家で収穫した繭は市場や問屋に集められ、仲買人を経て製糸場へと送られます。写真①は繭問屋での取り引きの様子です。



▲写真①繭取引の様子（現在の本町）
※明治42年

製糸場で作られた生糸は、横浜などから外国へと輸出されました。写真②は、三島にあった波多野製糸（神川製糸）が横浜商人を通じて生糸を輸出した際の代金が記されています。約二百八十キロの生糸を四千円近くで売ったことがわかります。



▲写真②生糸輸出代金仕切書

写真③は、三島の裏町（三嶋大社西側あたり）にあった藤秀館製糸場で使用されていた輸出用の生

糸ラベルです。流水に桜という日本らしいデザインとアルファベットの組み合わせです。



▲写真③生糸ラベル

明治中期から繁栄した三島の製糸業ですが、中・小規模の工場が多かったため、大量生産できる大規模工場におされてその多くは大正末ごろまでに操業を停止してしまいました。前述の藤秀館製糸場も一時は伊豆三大製糸に数えられるほどでしたが、明治末に廃業しています。

養蚕・製糸業の発展は、宿場の衰退によってさびれていた明治時代の三島に経済的活気を取り戻すものでした。

郷土資料館三階「三島の成り立ち体験学習室」では、明治・大正時代の三島の産業を資料やパネルで学ぶことができます。ぜひ足を運んでみてください。



三島と古写真⑨

中央幼稚園卒園式

木造校舎を背に着物や洋服を着たおかげや坊主頭の子どもたち、そして立派な口ひげの紳士を中央にしたこの写真は、大正十五年（一九二六）の町立三島幼稚園の卒園記念写真です。前身となる三島尋常小学校付属幼稚園は、明治二十二年（一八八九）に江戸時代の陣屋跡（現市役所）に建てられました。県下では静岡・掛川と並んで最古の幼稚園の一つで、三島出身の童話作家小出正吾さん（こいでまご）も通園していました。大正十二年の関東大震災や昭和五年の北伊豆震災では園舎が大破し、移転をくり返します。昭和七年に中央町に園舎が完成し、後に三島市立中央幼稚園と改称して保育が行われました。しかし、創設から百二十一年後の平成二十二年に東幼稚園と統合され、廃園となりました。



▲町立三島幼稚園（後の三島市立中央幼稚園）卒園式